

SUMIRE YOSHIHARA PERCUSSION RECITAL 2018

吉原すみれ

パーカッションリサイタル 2018

【Program】(演奏順未定)

-  田中 賢 (1946-) : 委嘱作品〜パーカッション・デュオのための (2018) [世界初演]
Masaru Tanaka (1946-) : Commissioned Work (2018) [World Premiere] 共演：山口恭範 (パーカッション) 
-  原田敬子 (1968-) : 委嘱作品〜パーカッション・ソロのための (2018) [世界初演]
Keiko Harada (1968-) : Commissioned Work (2018) [World Premiere] (C) Arain Fuchs
-  杉山洋一 (1969-) : 十七絃箏と打楽器のための「ディスタンス」 (2018) [日本初演]
Yaichi Sugiyama (1969-) : Distance for 17-gen koto and percussion (2018) [Japanese Premiere] 共演：沢井一恵 (十七絃箏) 
(C) 山之上雅信
-  小出稚子 (1982-) : 花街ギミック (2010/18) [改訂初演]
Nariko Koide (1982-) : HANAMACHI GIMMICK (2010/18) [Revised Version World Premiere]
-  石井眞木 (1936-2003) : 漂う島〜十七絃と打楽器のための Op. 38 (1979)
Maki Ishii (1936-2003) : Drifting Island for Koto(17-chord) and Percussion Op.38 (1979) 共演：沢井一恵 (十七絃箏)

(C) 宮森庸輔

2018年 11月 7日 [水] 開演 19:00 (開場 18:30) 東京文化会館小ホール

(上野駅公園口改札正面)

全席自由 一般 4,000円 / 学生 2,000円

【チケット取扱】

東京文化会館チケットサービス TEL 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/>

【お問い合わせ・チケット取扱】

東京コンサーツ TEL 03-3200-9755 <http://www.tokyo-concerts.co.jp/> (HPで予約、セブンイレブンで支払、受取が出来ます)



吉原 すみれ Sumire Yoshihara (パーカッション)

工藤昭二、小宅勇輔、有賀誠門、高橋美智子の各氏に師事。1972年東京藝術大学大学院在学中に、ジュネーブ国際コンクール打楽器部門で優勝、同時にプリ・アメリカン賞受賞。以後、ヨーロッパ、日本を中心にソロ活動を続ける。1977年ミュンヘン国際コンクールで1位なしの2位。1980年サントリー音楽賞受賞。アルバム「吉原すみれ・打楽器の世界1」において芸術祭優秀賞受賞。アンサンブル・ヴァン・ドリアン団員として1983年中島健蔵賞受賞。ミュンヘン、ジュネーブ各国際コンクールの審査員を務める。2002年中島健蔵音楽賞優秀賞を受賞。2004年朝日現代音楽賞受賞。多数のソロCDをリリースしている。アンサンブルタケミツ、メンバー。武蔵野音楽大学教授。



沢井 一恵 Kazue Sawai (箏)

宮城道雄に師事。東京藝術大学卒業。沢井忠夫と共に沢井箏曲院設立。現代邦楽で活躍する一方、作曲家の一柳慧、打楽器の吉原すみれと結成した「トライアングル・ミュージック・ツアー」「沢井一恵・360°の眼差し」、ジョン・ゾーン、高橋悠治プロデュースによるリサイタルなど多彩な実験的活動を展開。NYのBANG ON A CAN フェス、ウィーン、パリ市立劇場、メールスJAZZフェス(独)、ミュージック・アクション(仏)などにより招聘を受け、各ジャンルでのコンサートを通じ、古典にはじまる日本伝統楽器としての箏と西洋音楽、現代音楽、JAZZ、即興音楽などとの接点を探る。その過程で出会った、ジョン・ケージ、ロシア人作曲家ソフィア・グバイドゥーリナとの共同作業、即興音楽を経て、箏コンチェルト(NHK交響楽団委嘱)へと展開、アメリカツアーを行う(NYカーネギー、ボストンシンフォニーホールなど全6公演)。その後、ロシア国立管弦楽団との共演など世界中の音楽シーンで箏音楽の真価を問いつけている。



山口 恭範 Yasunori Yamaguchi (パーカッション)

東京藝術大学を卒業後、欧米で研鑽を積み、1966年ソロリサイタルを開催し注目される。1972年より10年間、新日本フィルに在籍。また、高橋アキ、小泉浩らと演奏グループ「アーク」を結成。1983年武満徹企画の「Music Today」でソロリサイタル。同年、中島健蔵音楽賞を受賞、1993年ベルリン芸術週間で石井眞木作曲、指揮による打楽器コンチェルト「砕動鬼」を初演。2004年朝日現代音楽賞受賞。1992年ソロCD「イリュージョン」を発表。名古屋音楽大学客員教授。アンサンブルタケミツ、メンバー。

(C)宮森庸輔



田中 賢 Masaru Tanaka (作曲)

新潟県長岡市生まれ。東京音楽大学附属高校を経て同大学作曲科を卒業。作曲を南弘明氏、保科洋氏に、指揮を秋山和慶氏に師事。伊伊桑氏の招待によりベルリン芸術大学作曲科に留学、作曲を伊伊桑氏に師事。ガウデアムス国際作曲コンクール第3位、ヒツァーカー作曲コンクール第1位、シュトゥットガルト作曲コンクール第1位受賞。作品は、オーケストラ、室内楽、吹奏楽、合唱、映像音楽など多岐にわたり、「ワルシャワの秋」「ベルリン音楽週間」「パリの秋」等の国際音楽祭、「科学万博つくば」「日本国際博覧会(愛・地球博)」等、内外で演奏され、好評を得ている。また、長野冬季オリンピック、第6回ワールドゲームズでの委嘱をはじめ、全国植樹祭、国民体育大会など、式典音楽の作曲・編曲、音楽アドバイザーも務める。元札幌大谷大学芸術学部作曲科教授。



原田 敬子 Keiko Harada (作曲)

「演奏家の演奏に際する内的状況」に着目し、独自の作曲語法を追求している。NHK交響楽団、読売日本交響楽団、ジューメンス音楽財団(独)など国内外での委嘱多数。日中韓の伝統楽器への挑戦的作品も多い。日本音楽コンクール第1位、山口県知事賞、芥川作曲賞、中島健蔵音楽賞、尾高賞ほかを受賞。近年、サントリー芸術財団「作曲家の個展」、台北国際現代音楽祭のテーマ作曲家。また日本の各地域で育まれた音表象を調査し、新たな響きと身体表現によって再発見するプロジェクト「伝統の身体・創造の呼吸」を開始。'18年以降は、東京芸術祭、シアター・オリムピクス(舞踊、振付家の金森稯氏との新作)等の活動が予定されている。現在、東京音楽大学准教授。桐朋学園や静岡音楽館で講師として毎年70名以上の子どもたちに作曲を教えている。

(C)Arain Fuchs



杉山洋一 Yoichi Sugiyama (作曲)

1969年生まれ。桐朋学園大学作曲科を経て、95年イタリアに留学。作曲を、三善晃、フランコ・ドナトーニ、サンドロ・ゴルリに、指揮をエミリオ・ポマリコ、岡部守弘の各氏に師事したほか、ルイス・デ・パブロ、リゲティらの作曲セミナーに参加した。ヴェネチア・ビエンナーレ、ミラノ・ムジカ、ポローニャ・アンジェリカ音楽祭等のほか、東京混声合唱団、多治見少年少女合唱団、ブルーノ・カニーノ/大井浩明デュオ、安江佐和子、瀬尾/加藤ピアノ・デュオ、東京現音計画、吉村七重、などから委嘱を受け、作品は東京の夏、武生音楽祭、クラスノヤルスク・アジア太平洋地域音楽祭、トリノアンティドグマ音楽祭など各地で演奏されている。指揮者としても世界各地から招かれ出演している。イタリア、著作権協会賞、第13回佐治敬三賞、第2回一柳慧コンテンポラリー賞、平成29年度(第68回)芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

(C)山之上雅信



小出 稚子 Noriko Koide (作曲)

東京音楽大学、同大学院修了、アムステルダム音楽院およびアン・ハーグ王立音楽院を修了、インドネシア国立芸術大学でジャワ・ガムランの演奏と理論を学ぶ。これまでに作曲を池辺晋一郎、伊左治直、遠藤雅夫、佐藤真、藤原豊、福田陽、細川俊夫、Wim Henderickx、Martijn Padding、Yannis Kyriakides各氏に師事。第17回芥川作曲賞受賞、第76回日本音楽コンクール第2位、第18回出光音楽賞、アリオン賞など受賞多数。作品は、新日本フィル、東京シティ・フィル、東京フィル、仙台フィル、AskolSchönberg Ensemble、Nieuw Ensemble、東京混声合唱団、ヴォクスマーナ、アンサンブル・ジェネシス、大井浩明、大萩康司、村田厚生、吉原すみれ各氏、武生国際音楽祭、ガウデアムス国際音楽週間、上海現代音楽週間、Music From Japan Festival、Toonzette、テレビ朝日、NHK-FM等で演奏、紹介されている。自作自演ユニット「鬼子母神不眠ガールズ」、アート・ユニット「すけべ人間」各メンバー。



石井 眞木 Maki Ishii (作曲)

舞踊家・石井漢の三男として東京に生まれる。伊福部昭他に作曲を学んだ後、1958年に渡独、ベルリン音楽大学作曲科に在籍、ブラッハー、ルーファーに学び、62年に帰国、東京を中心に活発な作曲活動を行う。1969年、西ベルリン市の「芸術家プログラム」の招きで再渡独。以来、ベルリンー東京を本拠に、作曲家、指揮者として精力的な活動を行う。また、'88年以来自作のパレエ「輝夜姫」を世界各地で90数回にわたり指揮、大成功をおさめた。さらに1999年にはオペラ「閉じられた舟」が国際的なスタッフ、キャストによりユトレヒト、ベルリンで5回にわたり初上演され好評を博した。2000年には日生劇場で日本初上演が行われた。代表作に〈響応〉〈響層〉〈遭遇I・II〉〈モノプリズム〉など。「尾高賞」、「中島健蔵音楽賞・大賞」、「ドイツ批評家賞」、「京都音楽賞大賞」など多数受賞。1999年秋には「紫綬褒章」を受章している。2003年逝去。